

## 2008年4～6月期GDP統計予測

～前期比▲0.6%。内・外需の減少により大幅なマイナス成長に～

### (1) 2001年7～9月期以来の大幅なマイナス成長

2008年4～6月期の実質GDP成長率は前期比▲0.6%（年率▲2.6%）と、2001年7～9月期以来の大幅なマイナス成長となった見込み。これは、①個人消費の大幅減を中心とした内需の減少に加え、②輸出の減少により外需の寄与度がマイナスに転じたことが主因。

### (2) 需要項目の特徴

#### イ) 個人消費（前期比▲0.8%、年率▲3.2%）

消費税率引き上げ直後の反動減（1997年4～6月期）以来の大幅な落ち込み。前期比で見た寄与度でも、最大の成長率押し下げ要因に。1～3月期の消費が好調だった反動もあるが、エネルギー・食料品を中心に値上げが続き、家計の実質購買力の低下により幅広い品目で消費が減少したことが主因。

#### ロ) 住宅投資（前期比+0.6%、年率+2.5%）

2四半期連続のプラス成長ながら、増勢が大幅に鈍化。建築基準法改正によるマイナス影響は剥落しつつあるが、需要サイドでは物価上昇による所得環境の悪化やマンション価格の上昇などがマイナスに作用する一方、供給サイドでは資材価格の高騰により建築コストが増加した結果、着工戸数が伸び悩んだことが主因。

#### ハ) 設備投資（前期比▲0.5%、年率▲2.0%）

原材料価格の高騰による企業収益の悪化や、欧米経済の減速などを背景に設備投資の慎重姿勢が強まったため、4四半期ぶりの減少。

#### ニ) 純輸出（前期比寄与度▲0.1%ポイント、年率寄与度▲0.3%ポイント）

輸出の減少が輸入の減少を上回り、14四半期ぶりに寄与度がマイナスに。輸出は2001年4～6月期以来の年率二ケタ減（前期比▲2.8%、年率▲10.9%）。アジア向けの増勢鈍化に加え、景気減速が鮮明化したEU向けが大幅減となったため。輸入は、2003年4～6月期以来の減少幅（前期比▲2.5%、年率▲9.7%）。内需の低迷を背景に、財・サービスとも輸入が減少。

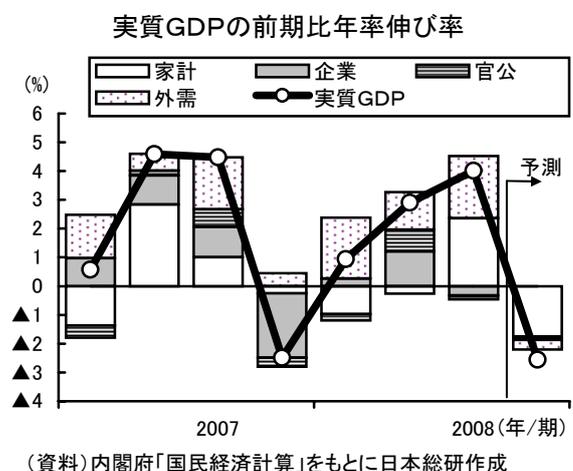
#### ホ) GDPデフレーター（前年同期比▲1.4%）

個人消費デフレーターは2四半期連続の上昇となったものの、輸入デフレーターの上昇傾向が続いたため、下落傾向が持続。

### (3) 当面の展望～下振れしやすい状況が持続

当面を展望すると、7月の製造工業生産予測指数が大幅に下方修正されたほか、8月にも減産が見込まれるなど、景気の下振れリスクが強まっている状況。7～9月期のGDPも、以下の3点がマイナス要因として働くため、下振れしやすい状況が続く見込み。

- ① 欧米景気の減速による外需の牽引力低下
- ② 原材料価格の上昇による企業収益の悪化により、設備投資の慎重姿勢が持続
- ③ 消費者物価上昇率が2%を超えていくため、実質ベースの個人消費の低迷が持続



## GDP統計予測表&lt;2008年7月31日時点の公表系列をもとに作成&gt;

## ■ 前期比

(%, 十億円)

	実質GDP														名目GDP	デフレーター
	内需								外需							
	民間				官公需				輸出		輸入					
	個人消費	住宅投資	設備投資	民間在庫	政府消費	公共投資	公的在庫									
2007/ 4~6	▲ 0.6	▲ 0.8	▲ 0.9	0.2	▲ 4.5	▲ 2.5	▲ 1064.9	▲ 0.4	0.2	▲ 3.7	206.6	655.2	1.2	0.7	▲ 0.8	▲ 0.1
7~9	0.2	▲ 0.2	▲ 0.2	0.0	▲ 8.0	0.8	▲ 350.8	▲ 0.3	0.1	▲ 1.4	▲ 119.0	2482.7	2.8	▲ 0.1	0.1	▲ 0.2
10~12	0.7	0.4	0.3	0.4	▲ 9.2	1.2	609.3	0.9	0.8	0.6	69.3	1721.3	2.6	0.9	▲ 0.1	▲ 0.8
2008/ 1~3	1.0	0.5	0.7	0.8	4.6	0.2	▲ 618.7	▲ 0.2	▲ 0.4	1.3	▲ 64.5	2805.0	4.0	1.4	0.5	▲ 0.5
4~6	▲ 0.6	▲ 0.5	▲ 0.6	▲ 0.8	0.6	▲ 0.5	373.5	▲ 0.1	0.4	▲ 2.0	▲ 1.0	▲ 1103.1	▲ 2.8	▲ 2.5	▲ 0.6	0.0

## ■ 前期比年率

(%, 十億円)

2007/ 4~6	▲ 2.5	▲ 3.0	▲ 3.4	0.7	▲ 16.7	▲ 9.8	—	▲ 1.5	0.7	▲ 14.1	—	—	5.1	2.6	▲ 3.0	▲ 0.5
7~9	0.9	▲ 0.9	▲ 0.9	0.2	▲ 28.4	3.3	—	▲ 1.1	0.4	▲ 5.4	—	—	11.9	▲ 0.2	0.3	▲ 0.6
10~12	2.9	1.8	1.3	1.5	▲ 31.9	4.8	—	3.4	3.4	2.3	—	—	10.8	3.9	▲ 0.2	▲ 3.0
2008/ 1~3	4.0	1.9	2.7	3.3	19.5	0.7	—	▲ 0.7	▲ 1.7	5.5	—	—	17.1	5.6	1.9	▲ 2.1
4~6	▲ 2.6	▲ 1.9	▲ 2.4	▲ 3.2	2.5	▲ 2.0	—	▲ 0.3	1.5	▲ 7.9	—	—	▲ 10.9	▲ 9.7	▲ 2.6	0.0

## ■ 前年同期比

(%, 十億円)

2007/ 4~6	1.8	0.8	1.0	1.3	▲ 2.9	0.2	124.9	0.0	0.4	▲ 2.8	17.0	1321.9	7.8	1.4	1.3	▲ 0.5
7~9	1.7	0.5	0.7	1.7	▲ 11.5	0.4	▲ 126.7	0.2	0.3	▲ 0.5	▲ 15.0	1541.6	8.7	1.5	1.1	▲ 0.7
10~12	1.7	0.3	0.2	1.2	▲ 21.7	0.2	219.0	0.9	1.4	▲ 1.8	10.7	1845.9	10.4	2.3	0.3	▲ 1.3
2008/ 1~3	1.3	▲ 0.0	▲ 0.1	1.5	▲ 16.6	▲ 0.6	▲ 309.1	0.0	0.6	▲ 2.0	19.7	1870.9	11.1	3.0	▲ 0.2	▲ 1.5
4~6	1.3	0.2	0.2	0.5	▲ 11.9	1.6	▲ 0.3	0.4	0.8	▲ 1.7	▲ 20.0	1442.8	6.6	▲ 0.3	▲ 0.2	▲ 1.4

## ■ 前期比・寄与度

(%)

2007/ 4~6	▲ 0.6	▲ 0.7	▲ 0.7	0.1	▲ 0.2	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.1	0.0	▲ 0.2	0.0	0.1	0.2	▲ 0.1	—	—
7~9	0.2	▲ 0.2	▲ 0.2	0.0	▲ 0.3	0.1	▲ 0.1	▲ 0.1	0.0	▲ 0.1	▲ 0.0	0.5	0.5	0.0	—	—
10~12	0.7	0.4	0.2	0.2	▲ 0.3	0.2	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	0.3	0.5	▲ 0.2	—	—
2008/ 1~3	1.0	0.5	0.5	0.5	0.1	0.0	▲ 0.1	▲ 0.0	▲ 0.1	0.1	▲ 0.0	0.5	0.7	▲ 0.2	—	—
4~6	▲ 0.6	▲ 0.5	▲ 0.5	▲ 0.5	0.0	▲ 0.1	0.1	▲ 0.0	0.1	▲ 0.1	▲ 0.0	▲ 0.1	▲ 0.5	0.4	—	—

## ■ 前期比年率・寄与度

(%)

2007/ 4~6	▲ 2.5	▲ 2.9	▲ 2.6	0.4	▲ 0.6	▲ 1.6	▲ 0.8	▲ 0.3	0.1	▲ 0.6	0.1	0.5	0.9	▲ 0.4	—	—
7~9	0.9	▲ 0.9	▲ 0.7	0.1	▲ 1.0	0.5	▲ 0.3	▲ 0.2	0.1	▲ 0.2	▲ 0.1	2.1	2.1	0.0	—	—
10~12	2.9	1.7	1.0	0.9	▲ 1.0	0.8	0.4	0.7	0.6	0.1	0.0	1.3	1.9	▲ 0.6	—	—
2008/ 1~3	4.0	1.9	2.1	1.9	0.6	0.1	▲ 0.4	▲ 0.1	▲ 0.3	0.2	▲ 0.0	2.2	3.1	▲ 0.9	—	—
4~6	▲ 2.6	▲ 1.9	▲ 1.8	▲ 1.8	0.1	▲ 0.3	0.3	▲ 0.1	0.3	▲ 0.3	▲ 0.0	▲ 0.3	▲ 2.0	1.6	—	—

## ■ 前年同期比・寄与度

(%)

2007/ 4~6	1.8	0.7	0.8	0.7	▲ 0.1	0.0	0.1	▲ 0.0	0.1	▲ 0.1	0.0	1.0	1.2	▲ 0.2	—	—
7~9	1.7	0.5	0.5	1.0	▲ 0.4	0.1	▲ 0.1	0.0	0.1	▲ 0.0	▲ 0.0	1.2	1.4	▲ 0.2	—	—
10~12	1.7	0.4	0.3	0.7	▲ 0.8	0.0	0.2	0.1	0.2	▲ 0.1	0.0	1.4	1.7	▲ 0.3	—	—
2008/ 1~3	1.3	▲ 0.1	▲ 0.1	0.8	▲ 0.6	▲ 0.1	▲ 0.2	0.0	0.1	▲ 0.1	0.0	1.4	1.8	▲ 0.4	—	—
4~6	1.3	0.2	0.1	0.3	▲ 0.4	0.3	▲ 0.0	0.1	0.1	▲ 0.1	▲ 0.0	1.2	1.2	0.0	—	—

(注1) 民間在庫、公的在庫、外需の前期比、前年同期比はそれぞれ前期差、前年同期差。

(注2) 実績値は、基礎統計の追加、季節調整のかけ直しなどの要因により、内閣府公表の数値とは異なっている可能性もある。